

森律子 俳優。帝劇女優養成所の第一期生として、川上貞奴が切り拓いた道を広げ、近代女優史に大きな足跡。

もりりつこ

帝国議会始 1890 = 東京京橋で、伊予松山の久松藩に仕えていたが、維新後没落して弁護士となった森肇の次女に生まれる。

日清戦争始 1894 = 4歳 :

松隈内閣 1896 = 6歳 : 姉とともに跡見花蹊の塾に入れられ、

小学校から、

Bushidou 1899 = 9歳 :

女学校と寄宿舎生活を送り、

日露戦争終 1905 = 15歳 :

満鉄発足 1906 = 16歳 : この年、川上貞奴らによる帝国劇場が完成。

アヲキ 創刊 1908 = 18歳 :

*跡見高等女学校を卒業後、明石町にあった女子語学校(双葉女学校)の専科生となったが、10も年長ながら同じ専科生だった長谷川時雨が書いた脚本「花王丸」が歌舞伎座で上演されることになったり、謝恩会での余興で時雨が手伝った宗教劇が成功するなどして、多くの同級生とともにインパクトを受け、偶然、新聞の女優募集の広告を目にするや、両親へ帝国女優養成所への入学を懇願、女優の社会的地位が低かったため、強く反対されるも揺るがず、ついに許され、のち沢村宗十郎と結婚する河村菊枝らとともに、第一期生となる。跡見女学校の同窓会名簿から除名され、弟が入学した一高の記念祭を見物しに行つて罵声をかけられるなどしながらも、厳しい稽古に励み、山県有朋へのお酌を拒否するなど気骨も示し、

韓国併合 1910 = 20歳 :

首席で卒業する。時雨とは父が同じ弁護士であったこともあり、終生親交する。

大逆事件判決 1911 = 21歳 :

*帝国劇場開場公演の「頼朝」で初舞台。以後、一期生の筆頭として帝劇の看板女優となり、スターの道を歩み始め、反対していた両親も観劇し律子を喜ばせたが、評判が演技自体によせられたものが悩み、

明治天皇没 1912 = 22歳 :

大正政変 1913 = 23歳 :

父の援助で、半年間イギリス・フランス・ドイツを巡遊して帰国、芸域を広めることになった。

第一次大戦始 1914 = 24歳 :

姉をかばったため友人の非難を浴びて閉じこもったままになっていた弟が鉄道自殺する一方、帝劇経営者の一員でシナリオを盛んに書いていた益田孝の長男太郎と愛人関係となり、終生続く。

ロシア革命 1917 = 27歳 :

ハルビン条約 1919 = 29歳 :

天狗煙草で有名な岩谷松平の長男と結婚して6人もの女子を産んだ姉が流行性感冒で急逝したため、2女を引き取って養子とする。一人はのちの女優森赫子。

原敬首相暗殺 1921 = 31歳 :

水平社結成 1922 = 32歳 :

父が弁護士を引退して故郷の松山に戻ったのを契機に、明石町に移住。

関東大震災 1923 = 33歳 :

<関東大震災>に遭う。

円本時代始 1926 = 36歳 :

世界恐慌 1929 = 39歳 :

*帝劇が{松竹}経営になるとともに移籍して、新派劇の舞台に立つ。

満州事変 1931 = 41歳 :

五一五事件 1932 = 42歳 :

著書に「女優生活廿年」がある。

芥川直木賞始 1935 = 45歳 :

日中戦争始 1937 = 47歳 :

日米開戦 1941 = 51歳 :

年金+総武装 1944 = 54歳 :

*戦局も押し詰まるなか、引退し、小田原に疎開。

敗戦 1945 = 55歳 :

独立回復 1951 = 61歳 :

テレビ放送始 1953 = 63歳 :

国連加盟 1956 = 66歳 :

女舞を伝える桐座の名跡を再興し、4代桐大内蔵をつく。

川上貞奴によって切り開かれた近代女優の道をさらに一歩前進させ、演劇界に大きな足跡を残して、

安保闘争 1960 = 70歳 :

たいたい病始 1961 = 71歳 :

没した。